

病院実習で見た 粛々と病棟に送り込む医師・てんこ盛りのお薬

2月に放映されたNHKの滝山病院は、やはりショックで見えていませんでしたが、落ち着いて、録画してみました。

海外の文献からも日本に立ち遅れは本当にひどいもので、このままでよいのでしょうか。人間が安心して過ごせる場所は、どこにあるのかを今一度考えていきたいと思いました。

2018年に、病院実習したときも、ショックな状況でした。精神科病院に入院してくる患者さんの多いことにも驚き、病院と経営は切り離せなく、空床率を常に朝礼で発表、どんな人も入院させよという空気に、相談スタッフが、どんどん病気になっていく姿を見ました。

担当医師も粛々と診断をし、病棟に送り込む作業にも見えました。てんこ盛りのお薬にも驚き、床で転がっている患者さん、よだれでお話ができなくなっている方には、ただそばにいることしかできませんでした。

本人のためか、家族のためか、地域住民のために？
そう思わないとやってられない仕事なのか。
テレビに登場した医師と通じるようにも思いました。

「3か月ルール」で入院と退院を繰り返す方、
50年以上病院で暮らす方など様々な現実を知り、
高齢の認知症の方の受け皿にもなっている現実は驚きでした。

介護事業所経営